

# 授業力を高める入力と出力 授業を通して伸ばすため

連載①

大阪教育サークルはやし 荒井 賢一

教師は、授業を通して、日々、学ぶに値することを子どもたちに教えている。

教える内容を教師は、様々な媒体から入力し、さらに自分という媒体を通して、子どもたちに、授業という方法で出力する。どんなものを入力し出力するか。どのように入力し出力するかで、子どもたちの学びが大きく左右されていくだろう。

本連載では、教師の授業力を高めるための入力と出力について考えていく。

## 入力のための媒体

教えるべきことをどこから入力するのか。

- ① 教科書・指導書
- ② 教育書・教育雑誌
- ③ 辞書・図鑑・百科事典（電子辞書）
- ④ 一般書
- ⑤ テレビ（映画も含む）
- ⑥ ラジオ
- ⑦ インターネット

- ⑧ 教師（同僚を含む）
  - ⑨ 講座（人・レポートなど）
  - ⑩ サークル（人・レポートなど）
  - ⑪ 外（町・村・観光地など）
  - ⑫ 施設（美術館・科学館など）
- その他、教師が見るもの、聞くもの、触るもの、嗅ぐもの、味わうもの全てが入力といえる。

## 出力の方法

教師の出力の方法は授業だけではない。

- ① 授業
- ② 先生からの話（連絡も含む）
- ③ 学級通信
- ④ 日記・記録
- ⑤ 通知表・指導要録
- ⑥ レポート（論文）
- ⑦ 原稿
- ⑧ 研究会やサークルでの発表
- ⑨ 講座

- ⑩ 雑談・交流
  - ⑪ 日記や作文や自学へのコメント
  - ⑫ ブログ・ホームページ
- その他、教師が書くこと、話すこと、身ぶり手ぶり、感情表現などの全てが出力といえる。

## 授業力とは何か

こうして「入力のための媒体」と「出力の方法」を挙げると、何も入力していない教師もいなければ、何も出力していない教師もないことになる。

要するに、どんな入力や出力が、教師の授業力を高め、子どもを伸ばすことができるのか、重要になってくる。

では、授業力とは何だろうか。

授業の力とするだけでは意味がない。

「授業を通して子どもをより伸ばすことができる力」と定義したい。

同じ入力であっても、授業力の低い教師は、乏しい出力しかできず、子どもを伸ばすことができない。一方、授業力が高い教師は、豊かな出力で子どもたちを伸ばすことができる。

## 授業プラン 「情報を取りまく問題」

「情報は取り扱いによつては問題になりません。どんな問題になるのでしょうか。」

【板書】 情報を取りまく問題

「情報を取りまく問題を見つけて、ノートに箇条書きしていきましょう。」

教科書や資料集を参考に参考にあせる。

- ・ 秘密にしていることが公開される。
- ・ ウイルスが送られてきたりする。
- ・ 音楽や映画が無料で聴けたり観れるから、CDやDVDが売れない。

「情報はなぜ情けに報いると書くのでしょうか。」

思いつく子に挙手指名で発表させる。

【板書】 information

「読める人」

- ・ インフォメーション。

「この言葉を日本語で初めて情報と翻訳したのは、明治時代の作家、森鷗外だといわれています。」

【板書】 森鷗外

「この人は小説家として有名ですが、東大医学部で学びドイツに留学して陸軍のお

医者さんにもなりました。なぜ、森鷗外はインフォメーションを情報と翻訳したのでしょうか。」

- ・ 情報は、情けを持って伝えることが大切だと思つたから。

「さて、情報には送る側と受け取る側があります。では、情報を送る側と受け取る側、どちら側の責任が重いでしょうか。」  
どちらを選んだかを明確にしてから、理由を発表させていく。

【情報を送る側の責任が重い】

- ・ うその情報を流すと見る人が迷惑する。
  - ・ テレビやネットは大勢の人に送るから。
- 【情報を受け取る側の責任が重い】
- ・ テレビやネットや新聞を選ぶのは受け取る側だから。

- ・ その情報を信じるか信じないかは受け取る側の責任だから。

話し合いが活発になれば、討論をさせる。

「江戸時代から明治時代にかけて、脚気という病気が流行っていました。脚気になると、末端の神経がしびれ、心臓の機能が

が弱り、死ぬこともあります。日本がロシアと戦った日露戦争の時、軍人の約30万人が脚気になりました。その時、軍医だった森鷗外はどうしたと思いますか。」

- ・ 脚気を治す方法を見つけようとした。

「鷗外は、脚気の原因は細菌によるものだと考えました。伝染病だと考えたのです。ある時、米のご飯ではなく麦飯を食べると脚気が治るという情報が、鷗外の元に届きました。鷗外は、どうしたと思いますか。」

- ・ 麦飯に変えた。

「麦飯が脚気にいいという情報を鷗外は無視して、取り合いませんでした。その後約2万5千人の軍人が脚気が原因で死んだそうです。」

感想を聞くと、鷗外を非難する子も出る。

「鷗外は、細菌説を信じていました。人は自分が信じるものがあると、たとえ正しい情報であっても、ねじ曲げてとらえることがあるのです。みなさんは、情報受け取る側として、自分に都合のいい情報だけを受け取っていないかを考える必要があるのです。」